

31【P2】I -413

糸状菌 *Albophoma* sp. が生産する新規殺虫活性物質 sesquicillin 関連化合物群の単離、構造決定および生物活性

供田 洋^{1,2,3}, ○今里 梨絵², 内田 龍児¹, 山口 裕一¹, 増間 碌郎¹, 塩見 和朗⁴, 大村 智^{1,2,3} (¹北里大生命研, ²北里大院感染, ³北里研, ⁴北里大薬)

【目的】節足動物 *Artemia salina* (*A. salina*) を用いた殺虫活性物質の探索過程において、一条状菌 *Albophoma* sp. FKI-1778 株の培養液中より sesquicillin¹⁾(**1**: 図 1)および新規関連化合物 **2~5** を見い出したので、その培養、単離精製、構造決定および生物活性について報告する。

【単離および構造決定】培養液 (12 L) の遠心上清より、酢酸エチル抽出、ODS カラムおよび逆相系のカラムを用いた HPLC により精製し、**1** およびその関連化合物 **2~5** をそれぞれ 8.1、2.0、35.0、2.0 および 3.6 mg 単離した。NMR を中心とした各種機器分析の結果、**2~5** の化学構造はいずれもエキソメチレンを有する *trans*-デカリン骨格を基本構造とし、**1** のイソブレン鎖が異なる新規化合物群であることを明らかにした。

【生物活性】**1~5** の *A. salina* に対する最少生育阻止濃度はそれぞれ 6.25、200、100、>200 および 100 μ M を示した。また、**1** は細胞周期阻害剤として報告されていることから、**2~5** についても現在検討中である。さらに **1~5** の有する他の生物活性についても合わせて報告する。

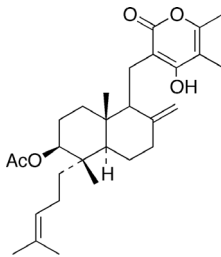


図 1 Sesquicillin の構造

1) Eugel, B. et al.: *J. Antibiotics*, **51**, 518~21, 1998